

山口県における高齢者の公園利用に関する研究

麻生美緒*・山本善積

Study on Utilization of Parks in Yamaguchi Prefecture for Aged People

ASOU Mio, YAMAMOTO Yoshizumi

(Received September 27, 2013)

1. 研究の目的と方法

こどもの遊び場として見られてきた公園を高齢者が利用することが多くなってきた。国土交通省の調査では、1966（昭和41）年には町中の公園の利用者は、小学生以下が44%、高齢者が6%であったが、2007（平成19）年には小学生以下が34%で、高齢者が14%であった¹⁾。実際に、公園でゲートボールやグラウンドゴルフをする高齢者、散歩・ウォーキングの途中で公園に立ち寄る高齢者、体操など軽い運動をする高齢者などを見かけるようになった。どこにでもあるわけではないが、健康遊具を利用する人も増えているという。

健康遊具に特段の定義はなく、平均台や腹筋台などのような体力づくり、あるいは軽い運動を目的につくられた遊具であるが、近年では、高齢者向け健康遊具として様々なタイプのものが設置されている。国土交通省が3年ごとに行っている全国の都市公園等の遊具に関する調査がある²⁾。その調査結果による遊具の設置状況の推移を表1に示した。2010（平成22）年度における全国の都市公園等の健康遊具設置数は20,583台となり、2004（平成16）年度の9,618台から2倍以上に増えている。遊具全体はそれほど増えてはいないが、全国的に健康遊具の設置が急増しているのである。

公園利用者における高齢者の増加や公園への健康遊具の設置の増加は、高齢者の増加、高齢化の進展を反映したものであるが、それだけでなく、社会全体での健康への関心の高まりも影響している。国の高齢者施策においては、「介護予防」という考えにもそれがあらわれている³⁾。この施策の評価はさておきとして、高齢者が心身ともに健康でありたいとして取り組む健康づくり活動は重要であろう。

高齢者の健康づくり活動には、先に述べたような「運動」などによって健康を維持増進すること、健康遊具も利用して病気や怪我を予防すること、趣味活動などを楽しく行い、生きがいをもってはつらつと生活することなどが含まれるだろう。こうした健康づくり活動を進める上で公園はどうあればよいだろうか。

本稿の目的は、①高齢者の目線で

表1 都市公園における健康遊具の設置状況（推移）

	1998年度	2001年度	2004年度	2007年度	2010年度
遊具計	389,737	418,847	432,387	437,068	458,832
健康遊具	5,690	7,238	9,613	15,144	20,583

出典：国土交通省・都市公園における遊具の安全管理に関する調査の集計結果

* (株)近江屋イヴグループ

の公園整備の状況、②高齢者の健康づくり活動の状況、公園に対する要求をつかみ、③高齢者の求める公園整備や公園利用の仕方を考察することである。そのために、高齢者の目線での全国的な公園整備の概況をつかむとともに、山口県の公園における健康遊具整備の事例について調べた。次いで高齢者の健康づくり活動について、山口市健康増進課、高齢・障害福祉課や山口市社会福祉協議会、山口市老人クラブ連合会に聴取調査を行い、活発に健康づくり活動を行っている2グループに対して健康づくり活動や公園利用に関する質問紙調査を行った。また、老人クラブの活動や要求も聴取した。実施時期は2010年5月～6月である。

2. 高齢者向けの公園整備の状況

(1) 国の公園整備方針の動向と地方自治体の取組

国の公園整備に関する方針では、バリアフリーやユニバーサルデザインによる整備を進めること、健康に資する公園の整備を進めること等が施策化されている。

まず、バリアフリーであるが、これの根拠となっているのは2006（平成18）年に制定された「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（以下ではバリアフリー新法と記す。）である。このバリアフリー新法によって都市公園はバリアフリー化の対象となり、整備にあたっては「都市公園移動等円滑化基準」に適合させることになった。高齢者は歩行が不安定であること、視力や聴力が低下していることなどを考慮し、安全に公園内が移動でき、公園施設を利用できるよう基準を定めている。ユニバーサルデザインの必要性についても、国土交通省の「公園・緑化技術五箇年計画」⁴⁾などで触れられている。

健康に資する公園の整備としては、国土交通省監修による「公園緑地マニュアル」に、①健康福祉公園都市づくり促進事業⁵⁾、②いきいきふれあい公園（福祉施設等一体型公園）⁶⁾、③健康・運動施設整備事業⁷⁾、④市民農園整備事業、といった都市公園事業が紹介されている。このなかの健康・運動施設整備事業によって、山口県では萩市と柳井市にウェルネスパークが整備された。

地方自治体では、大阪府の取組が先進例の1つである。大阪府では早い時期から公園緑地に障がい者対応が取り入れられてきた。1970年代の初めから大阪府営公園に「身障児コーナー」や「盲人コーナー」が整備され、現在はハートフルパーク事業として「すべての人が集い楽しめる公園づくり」が進められている。この事業では、次のような取組が行われている。①ユニバーサルデザインによる公園整備、②らくらく1ルートの設定、③ゆったりトイレの設置、④ヒーリングガーデナー養成事業。らくらく1ルートの設定とは、公園内の見所を結ぶ1ルートを設定し、障がい者や高齢者でも楽に散策できるように、音声案内板の設置、出入口の改修、段差の解消、スロープの設置などを行うものである。また、ヒーリングガーデナー養成事業とは、公園利用者をサポートするために、園内案内、自然解説、車いす介助、園芸療法の実施などを行うボランティアを養成するもので、36時間の講義と36時間以上の公園での体験学習を終了するとヒーリングガーデナーの資格が取得でき、さらに2年間の研修の後、各自で独立して活動するものである。実際に有資格者が主要な府営公園に配置されている。

(2) 健康遊具

先にも述べたように、健康遊具の設置が増加している。腹筋や懸垂など体力づくりを目的にした健康遊具は以前からあるが、最近増加しているのは高齢者も利用できるように考えられた遊具、あるいは「高齢者向け健康遊具（器具）」、「介護予防遊具」などとも呼ばれる遊具である。

これらは高齢者だけでなく、子どもや大人でも気軽な運動等に利用できるものが多い。

健康遊具の設置が公園等で増加している背景には、高齢化の進展で健康への関心が高まったこと、また、介護保険制度の変更で介護予防が重視されるようになったこと、さらに、子ども向け遊具での事故が相次いだことなどが考えられる。介護予防との関係では、厚生労働省の「地域介護・福祉空間推進交付金」が健康遊具の設置に関わっている。この交付金の対象事業の中に、高齢者や障がい者と子どもとの共生型サービスを行う事業、高齢者が居宅において自立した生活を営むことができるよう支援する事業があり、これらに該当する事業として健康遊具の設置がされている。例えば仙台市では、市内62箇所の公園に健康遊具が設置されているが、そのうち39箇所の公園に設置された健康遊具に「地域介護・福祉空間推進交付金」が使われている⁸⁾。

また、子ども向け遊具での落下、遊具の接続部分に指を挟まれての切断などの事故が起こった。これらの事故は遊具自体の安全性が原因となるものもあるが、遊具の老朽化やその点検が行き届いていないことなども原因である。しかし、遊具自体の安全性に問題があると見られたものなどが撤去されることとなった。国土交通省の発表では、2004年度から2007年度にかけては、回転塔、ゆりかご型ぶらんこ、ジャングルジムが、2007年度から2010年度にはゆりかご型ぶらんこ、吊り輪、回転塔の設置数がとくに減少したと報じている⁹⁾。これらの遊具の設置数を見ると、回転塔は2004年度の4,989台から2010年度には2,902台に、ゆりかご型ぶらんこは3,628台から2,011台に大きく減少している¹⁰⁾。2004年度から2010年度にかけて、遊具が設置されている都市公園およびその他の公園は104,916箇所から135,417箇所へと30,501箇所増加し、そこに設置された健康遊具は10,970台増えているが、撤去等による減少があり、遊具全体では26,445台の増加になっている(表1参照)。子ども向け遊具の一部が撤去される一方で、健康遊具が増加をしてきたのである。

表2は健康遊具が設置されている都市公園を種類別に示したものである。都市公園には街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園、運動公園などの種類があり、いずれにも健康遊具が設置されているが、最も多く設置されているのは街区公園である。街区公園は都市公園の中で面積基準の小さな公園であり、数が多いが、ここに健康遊具の46.0%が設置されている。また、2004年度から2010年度の増加率でも最も高くなっている。とはいえ、近隣公園、地区公園など比較的面積の大きな公園にも健康遊具の設置が進められていることが見て取れる。つまり、様々な公園に健康遊具の設置が進められているのである。

表2 都市公園における健康遊具の設置状況とその推移(公園種類別)

	街区公園	近隣公園	地区公園	総合公園	運動公園	その他
1998年度	2,295	857	342	333	288	706
2004年度	3,904	1,704	626	752	416	1,318
2010年度	9,466	3,665	1,479	1,387	861	2,227
増加率(%)	142.5	115.1	136.2	84.4	107.0	69.0

増加率は2004年度から2010年度の増加割合を示す。

出所：国土交通省・都市公園における遊具の安全管理に関する調査の集計結果より作成

3. 山口県における高齢者に配慮した公園整備

(1) ウェルネスパーク

先に述べたように、健康・運動施設整備事業によって萩市と柳井市にウェルネスパークが整備されている。これらはいずれも山口県立公園として整備され、様々なスポーツの施設とあわせて健康遊具が備えられている（現在は萩ウェルネスパークのみが県立公園として供されている）。山口県土木建設部都市計画課によれば、健康遊具の設置は山口県では積極的には進めていないとのことで、これらの健康遊具は、いわばウェルネスパークに限られた設置である。以下では萩ウェルネスパークを中心に述べる。

萩ウェルネスパークは1989（平成2）年度に整備が始まり、各年齢層が手軽な健康運動を行えるとともに、スポーツ・レクリエーション活動の場、地域住民のコミュニケーションの場としての拠点公園を目指して整備されてきた。野球場（萩スタジアム）、多目的広場（萩スポーツ広場）、多目的体育館（萩武道館）、弓道場、ゲートボール場、芝生広場、大型複合遊具広場（夏みかんランド）などの施設を備えた18.6haの広域公園である（写真1）。



写真1 大型複合遊具広場

ゲートボール場はグラウンドゴルフにも利用でき、ベンチが多く設置されている。園路との間には段差がなく、高齢者等の利用に配慮されている。健康遊具は2007年に開設された大型複合遊具広場の周囲に10基設置されている。大型複合遊具広場の中心には夏みかんをイメージした複合遊具があり、児童ゾーンと幼児ゾーンに分割されている。この広場は主に子育て中の保護者ら地域住民からの要望によって整備された¹¹⁾。

健康遊具は、①背伸ばしベンチ、②わき腹伸ばし、③のぼりおり、④お腹ひねり、⑤上体ひねり、⑥ふみ台わたり、⑦でこぼこ道、⑧わたり橋、⑨ぶらさがり、⑩足のばしの10種類が設置されており、それぞれに利用の仕方を示した利用案内板も設置されている（写真に示した）。この利用案内板には「この器具は高齢者優先にてお願いします」と記されており、高齢者向けに設置された健康器具であると言える。また、これらの遊具の大部分は東京都の介護予防公園に設置された介護予防遊具と同じである¹²⁾。なお、健康遊具の使い方教室が大型複合遊具広場のオープン記念行事のあった2007年10月8日に行われたが、その後は開催されていない。

萩ウェルネスパークはJR萩駅からバスで5分、最寄りのバス停留所から徒歩で6分の距離にある。JR萩駅から11分であるから、それほど不便な立地条件ではないが、萩市街地からはやや遠く、周辺に住宅も少なく、高齢者が気軽に立ち寄れる公園とは言えない。高齢者の利用を促そうとすれば、相当な取組や工夫が必要であろう。

柳井ウェルネスパークについても簡単に触れておく。柳井ウェルネスパークも萩ウェルネスパークと同じ時期（1989年整備開始）に同様の目的で整備が行われた。多目的広場、健康広場、展望広場、ジョギングコース、テニスコート草スキー場、温水利用型健康運動施設（アクアヒルやない）、修景池などのある面積20.4haの広域公園である。近くには園芸療法も取り入れられている「やまぐちフラワーランド」もある。当初は県立公園として整備されたが、2012（平

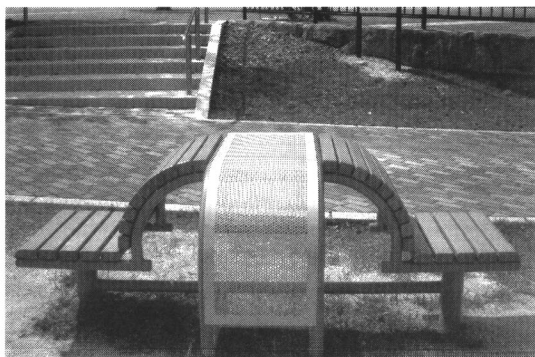


写真2 ①背伸ばしベンチ

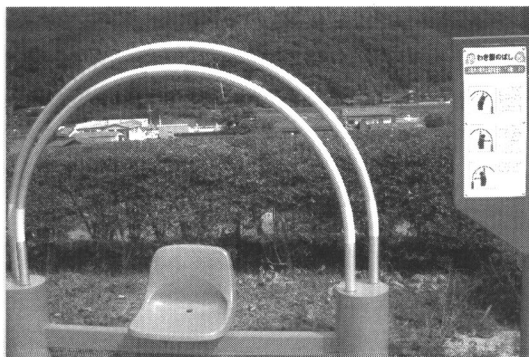


写真3 ②わき腹伸ばし

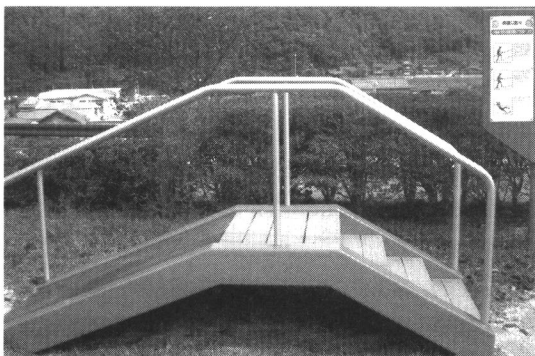


写真4 ③のぼりおり

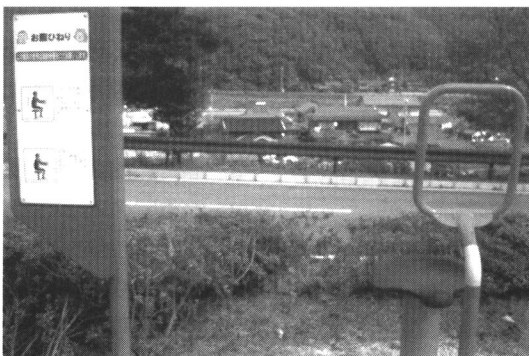


写真5 ④お腹ひねり

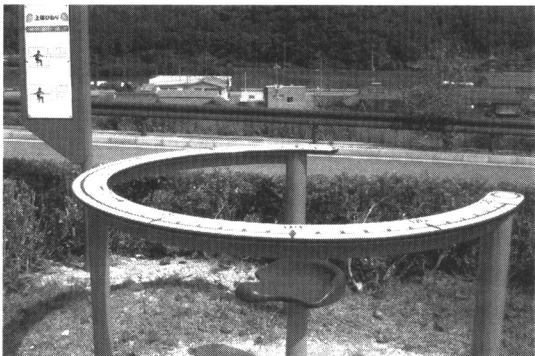


写真6 ⑤上体ひねり

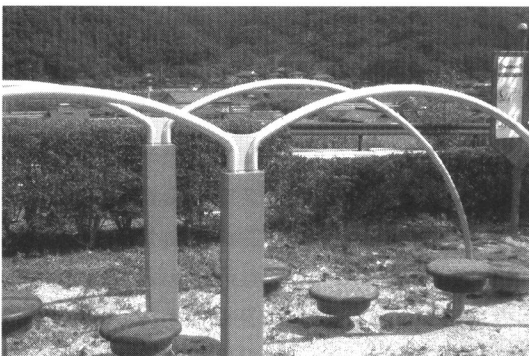


写真7 ⑥ふみ台わたり

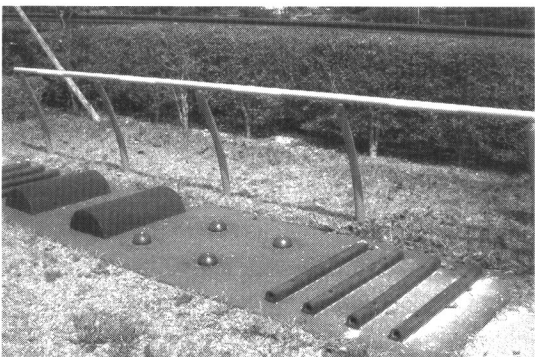


写真8 ⑦でこぼこ道



写真9 ⑧わたり橋



写真10 ⑨ぶらさがり



写真11 ⑩あしのぼし



写真12 利用案内板

成24)年に柳井市に移管された。

健康遊具は2000(平成12)年に開設された大型複合遊具のある健康広場に13種類の遊具が設置されている。また、萩ウェルネスパークと同様にそれぞれの遊具に利用案内板が設置されている。その案内板に従って健康遊具を記す。①けんすい、②ぼうとびこし、③つりわ、④じょうたいおこし/うでたてふせ、⑤すいちよくはしご、⑥てつぼうとびあがり、⑦たいやらん、⑧じゃんぶたち、⑨へいこうぼう、⑩すとれっちはしら、⑪うんてい、⑫へいきんだい、⑬ひかがみすとれっちの13基がジョギングコースに沿って配置されている。また、準備運動を行う小さなスペースが4箇所、整理運動を行うスペースが3箇所整備されていて、行い方を示した表示板もある。

これらの健康遊具は萩ウェルネスパークのものとはかなり違っていることが分かる。萩ウェルネスパークでの健康遊具の整備は2007年であるのに対して、柳井のそれは2000年である。柳井ウェルネスパークの健康遊具は木製で、名称はすべてひらがなで利用案内板に表示されており、萩ウェルネスパークで見られたような「高齢者優先」という文言もない。名称からはこれまで子ども向けに設置されてきた遊具のように見られるが、つりわなどの高さは子どもでは利用しにくいと思われるものもある。これらの健康遊具がどのような経緯で設置されたかは、山口県の公園担当課に聴取しても分からなかった。しかし、次のような推測ができる。大型複合遊具を利用する子どもの利用とジョギングコースを利用する大人の利用を想定してこれらの健康遊具が設置されたのではないだろうか。2000年というこの時期には、介護予防遊具という考えも実例もなかった。柳井ウェルネスパークの健康遊具に似た実例は、大阪府久宝寺緑地の健康遊具に見られ、こちらでは高齢者等を対象として健康遊具を利用した運動教室も行われている¹³⁾。

柳井ウェルネスパークはJR柳井駅から車で約10分、最寄りのバス停からは徒歩で約15分の位置にある。温水プールで高齢者向け運動プログラムも実施されているものの、萩ウェルネスパークと同様に、高齢者が気軽に行ける公園とは言い難い。二つのウェルネスパークは長寿社会への対応として、国の都市公園事業による整備を進めたものであるが、その立地条件からしても高齢者が手軽に健康づくりをできる場にはなっていない。身近なところで健康づくりができる環境を岩国市に探した。

(2) 岩国市の高齢者に配慮した公園整備・公園管理

山口県岩国市には85の都市計画公園があり、これを含めた都市公園は2013年9月時点で250箇所ある。内訳は街区公園240箇所、近隣公園2箇所、地区公園3箇所、総合公園2箇所、運動公園2箇所、特殊公園1箇所である¹⁴⁾。バリアフリーに整備された公園が25箇所、健康遊具を設置した公園が10箇所あることが岩国市都市計画課のホームページに示されている。岩国市では高齢者等の公園利用をどのように考えているのだろうか。

岩国市都市計画課からの聴取によれば、公園を利用する高齢者が増加したことは把握しており、高齢者を含めたすべての人が利用しやすい公園を目指して整備をしているとのことであった。2010年時点では、20の高齢者グループが公園を利用してゲートボール、グラウンドゴルフを行っているということであった。但し、この20グループは都市計画課が把握している数で、16グループがグラウンドゴルフ、4グループがゲートボールで専用のコートのない街区公園等を利用しており、子どもなど他の利用との調整を図るために把握しているとのことであった。したがって、これ以外の高齢者グループも利用しているとのことであった。総合公園などにはグラウンドゴルフ場が設けられているが、高齢者が日常的に利用し、利用要求が高いのは身近にある街区公園等であることが分かる。このことは、特別に高齢者向けの公園を整備しなくても、既存の公園で高齢者の意見・要望を聞き、それを可能な範囲で取り入れることで高齢者の公園利用に対応できるとも言える。

この他に、公園整備の際に健康増進課や介護保険課等、健康・福祉関係部署の意見を取り入れられたり、岩国市保健センターなどからウォーキングに適した公園等の紹介要望があると、情報提供をしている。他方では、公園を利用する高齢者から苦情も多く聞かれるようになったということである。公園内で子どもがボール遊びをすると、園路を歩く高齢者が危険を感じることもあるという。確かにそう広くない街区公園ではこのような問題が起きやすい。それが大きな問題にならないように利用時間を調整したり、利用マナーを確認する公園の管理活動も重要になっている。

次に健康遊具の設置である。健康遊具は運動公園1箇所、地区公園1箇所、街区公園6箇所に設置されている。このうち、運動公園には8基、河川敷となっている地区公園には13基、そして各街区公園には1～3基の健康遊具が設置されている。運動公園、地区公園に設置されているのは背伸ばしチェア、腹筋ベンチなどベンチとしても利用できるものの他に、運動を目的とした健康遊具が多く見られる。街区公園には背伸ばしチェア、腹筋ベンチ、アスレチックベンチといったベンチとしても利用できるものがほとんどである（写真13参照）。また、これらは高齢者だけでなく、幅広い年齢層で利用できるものである。

岩国市では健康遊具の設置が全国的に増えているので設置しているそうであるが、とくに高齢者の健康づくりや介護予防を目的としてはいなくて、誰でもが利用できるものを設置しているとのことであった。国土交通省監修「時代に応える公園緑地事例集」（2006年）で紹介されている岩国市の車町第一街区公園の整備状況を見ておく。

車町第一街区公園は2005（平成17）年に開設



*手前のベンチが健康遊具
写真13 車町第一街区公園の園路

された0.15haの街区公園で、中央に多目的広場があり、園路に沿って健康遊具を兼ねたベンチやトイレが設置されている。広場の端には複合遊具や休憩所がつけられている。トイレ、園路は車いす利用者に配慮したバリアフリー整備がされている(写真13)。公園の整備に際しては、周辺の老人会、子ども会にアンケート調査を行い、地域住民の意見を取り入れて整備がされている。公園の維持管理でも地域住民の協力により、除草、樹木の剪定、トイレの清掃がされている。こうした整備方法は他の公園でも同様に行われており、地域住民の意見・要望を聞き、それに応え、維持管理でも協力していくという基本的なことが当然のこととして行われているのである。

4. 山口市における高齢者の健康づくり活動と要求

(1) 自主活動グループの活動と公園利用に関する要求

高齢者の健康づくり活動の状況や公園利用の状況・要求を把握するために、山口市内で自主的に健康づくり活動を行っている二つのグループについて調査をした。65歳以上を対象として、要介護の原因となる転倒・骨折を予防するための講義、実技教室が「転倒骨折予防教室」として行われている。山口市健康福祉部健康増進課では、その教室の1つとして下肢筋力やバランス能力を改善するために「健脚教室」を12回1コースとして開いているが、その参加者のグループ(「健脚教室OB会」)が各地域で健康づくり等の自主的な活動を行っている。このような経緯でつくられた「大殿どんぐりの会」と「小鯖健脚教室」の活動と要求を調査した。両グループの概要は表3に示した。

これらの活動グループの会員に、①普段行っている健康づくり活動とその場所、頻度、②健康づくり活動に関する意見・要望、③公園の利用状況(公園、利用目的、頻度)、④公園に関する意見・要望、⑤公園を利用しない人にはその理由、の5項目について質問紙で調査した。記述回答が多いので、グループごとに主な結果を述べる。

表3 大殿どんぐりの会・小鯖健脚教室の概要

	大殿どんぐりの会	小鯖健脚教室
会 員 数	13名(女性のみ)	14名(男性1名、女性13名)
年 齢 構 成	65～69歳：2名、70～74歳：6名、 75～79歳：4名、80～84歳：0名、 85歳以上：1名	64歳以下：1名、65～69歳：2名、 70～74歳：2名、75～79歳：3名、 80～84歳：1名、85歳以上：3名、 不明：2名
年間活動回数	12回(月1回)	22回(月に2回)
主な活動場所	大殿地域交流センター	小鯖地域交流センター
主な活動内容	保健師による講話(老化予防、自宅でできる体操)、介護予防出張講座(認知症予防、生活習慣病予防)、体力測定、ころげん体操、転倒むし体操、ウォーキング、カローリング、グラウンドゴルフ等	保健センターによる保健指導、介護予防出張講座、体力測定、ラジオ体操、転倒むし体操、歌体操、正田山ハイキング、野外活動(講演散策等)、パークゴルフ、カローリング等

1) 大殿どんぐりの会

普段の健康づくり活動では、ウォーキングと回答した人が8名で、散歩等を含めると10名となる。またラジオ体操、ころげん体操などの体操をしていると回答した人が6名、グラウンド

ゴルフとの回答が4名であった。ウォーキングや体操はほぼ毎日行っているとの回答が多かった。ウォーキングの場所には6名がそのコースの一部として公園を利用している。グラウンドゴルフも山口市中心部の亀山公園が活動場所になっていて、月に1～2回行われている。他の活動では大殿地域交流センターが利用されることが多かった。活動に関する要望では、活動グループがたくさんつくられてほしい、水泳がしたい、活動場所への交通手段がなくて困る、介護予防出張講座の回数を増やしてほしいとお金がない、などが記されていた。

公園を7名が活動に利用しており、6名は利用していない。利用している公園は亀山公園である。公園の利用者からは、枯れた樹木を植え替えてほしい、花の公園がほしいなどの要望があった。公園を利用していない人の中で、3名は近くに公園がないと利用しない理由を回答しており、公園の少なさから利用できない人が多いと推測できる¹⁵⁾。

2) 小鯖健脚教室

14名のうち、調査日の活動に参加されていた11名の回答である。全員が普段の健康づくり活動を行っており、その内容は多彩で、7つの活動を挙げる人もいた。ウォーキングなど歩く活動は全員が行っており、家事等日常生活で体を動かすことを心がけている人が多かった。運動・スポーツでは、サイクリング、グラウンドゴルフ、バードゴルフ、卓球、ラージボール、ニュースポーツ（カローリング、ペタンクなど）、レクダンス、歌体操が挙げられた。これらの活動場所で、歩く場所では自宅付近を7名、公園を2名が回答し、運動・スポーツ等の場所では大内地域交流センターや市の公共施設との回答が多かった。グラウンドゴルフには公園のほかに小学校も利用されていた。歩く活動は週2～3回との回答が多く、運動・スポーツ等の活動は月1～2回との回答が多かった。健康づくり活動に関する要望では、専門家に運動の指導をしてほしいという点と、車に乗れないので歩いて行ける所でグループ活動をしたい、安価に利用できる施設が近くにほしいなど活動環境に関する点の2点が挙げられた。

公園は小鯖健脚教室の野外活動でよく利用されていて、山口きらら博記念公園、川原谷公園、江汐公園などが散策やパークゴルフに利用する公園として挙げられた。また、11名のうち9名は普段の活動でも維新百年記念公園、河川敷公園などの公園を利用するとの回答であった。近くの公園は週1～3回利用されているが、小鯖地区から遠い維新百年記念公園などは月1～2回の利用であった。近くに利用できる公園がある人からは助かっているとの回答があったが、自転車で行ける距離に公園がほしい、ウォーキングや軽い運動等ができる公園が近くにほしい、安心して歩ける道や広場等がほしいなど不満や要望もかなり多かった。

遠くの大きな公園に自家用車を利用して出かけ、グループ活動を行っているが、個人が日常で行う運動、ウォーキングに利用できる公園や広場、歩道等の環境は整備されていないことが分かる。どちらのグループでも同じような結果が得られた。

(2) 老人クラブの活動と公園利用

山口市老人クラブ連合会事務局によれば、2010（平成22）年における山口市の老人クラブ数は234、会員数は10,909人で、65歳以上の高齢者人口に占める比率は23.5%である¹⁶⁾。山口県、山口市老人クラブ連合会では健康づくり活動としてのゲートボール大会などが開催されている。2010年度では、健康づくりふれあい大会（運動会、ゲートボール大会、4月）、健康増進ペタンク大会（9月）、健康増進老人福祉大会（琴、合唱などの演芸披露、9月）、健康増進グラウンドゴルフ大会（10月）、健康増進ゲートボール大会（11月）、グラウンドゴルフ大会（11月）

が行われた。これらの大会には主に維新百年記念公園が利用されていた（南総合センターの利用も1回見られた）。事務局によれば、グラウンドゴルフ等の普段の練習には地域の公園等が利用されているとのことであった。実際に山口市の公園を管理している山口市都市整備課によれば、矢原河川公園には二つのゲートボール場が設けられていて、近隣地域の人々のゲートボール、グラウンドゴルフに利用され、ウォーキングやラジオ体操にも利用されているとのことであった。同様に、亀山公園、木戸公園もゲートボール等で利用されていることが把握されていた。

地域の老人クラブの活動についてつかむため、平川地区老人クラブ会長に聴取調査をした。平川地区には約40の自治会があり、3～4自治会で1つの単位老人クラブをつくっている。平川には全部で9の単位老人クラブがあり、会員数は258名、平均年齢は約80歳で、老人クラブ加入率は10.7%であった（2010年度）。他地域の老人クラブ加入率と比べるとかなり低い。

平川地区老人クラブでは、健康づくり活動として、前述の山口県、山口市老人クラブ連合会が主催するゲートボール等の大会に参加をしている。それらの大会はスポーツ技術の向上や老人クラブの活動に関する情報交換の重要な場になっている。しかし、会場への交通手段にとっても困っているとのことであった。徒歩・自転車ではやや遠く、バスは本数が少なく、バス停が近くにない地域（「交通不便地区」と呼ばれている）はとくに不便である。これ以外にも、平川地区独自の大会が年間数回行われている。2010年度について言えば、春季グラウンドゴルフ大会（5月）、春季高齢者体力測定（5月）、春季ペタンク大会（6月）、秋季ペタンク大会（9月）、秋季グラウンドゴルフ大会（10月）、秋季高齢者体力測定（11月）、西京老人だいがく（2月）が行われた。グラウンドゴルフの会場には矢原河川公園が、ペタンクの会場には平川地区内の都市公園（大芝公園：街区公園）が利用され、体力測定には高齢者生きがいセンター、病院ロビーが使われている。西京老人だいがくは高齢者の健康保持、介護予防、交通安全などに関して専門家が講話をするもので、平川地域交流センターが会場に利用されていた。

平川地域の幼稚園児、小学生、中学生、高校生との異世代交流も行われている。幼稚園児との運動会、小学生との昔の遊び大会、中・高生とのグラウンドゴルフ大会などで、これらの会場には河川公園や地域の都市公園、小・中学校が利用されている。

これらの大会や交流活動に向けて、あるいは日頃の健康づくり活動として、グラウンドゴルフ、ゲートボール、ウォーキング等が単位老人クラブで行われている。女性を中心にフォークダンスも行われているとのことであった。グラウンドゴルフは週に2～3回、ゲートボールは毎日、河川公園に集まって行われている。河川公園に行けない人たちは、近くの公園や広場で練習をするが、グラウンドゴルフ、ゲートボールができる公園や広場が平川地区にはなく、十分な練習はできないとのことであった。

5. まとめと考察

本研究の目的は、①高齢者の目線での公園整備の状況、②高齢者の健康づくり活動の状況、公園に対する要求をつかみ、③高齢者の求める公園整備や公園利用の仕方を考察することであった。山口県には2つのウェルネスパーク（広域公園）が整備され、健康遊具が置かれているが、広域公園の整備にも健康遊具の設置にも高齢者の要求が把握・反映されていなかった。また、これらの公園は交通手段に制約のある高齢者には気軽に行けるものではなかった。

歩いて行ける街区公園を高齢者にも利用しやすく整備している岩国市の取組に注目した。岩国市では、高齢者の公園利用に関する要求や苦情がつかまれている、公園整備においても、高

齢者を含んだ地域住民の意見が取り入れられ、維持管理にも地域住民の協力が上手く得られていた。基本的な住民参加が行われているということである。そして、高齢者も健康づくり活動に身近にある公園をよく利用していることが分かった。

高齢者の健康づくり活動を山口市においてみると、老人クラブの加入率の低下も見られるが、健脚教室など新たなグループの活動が生まれている。これらのグループや個人では、ウォーキング、様々な運動・スポーツ、体操、ダンスなどが取り組まれていて、高齢者の健康づくりの多様性が示されていた。これらの活動には公園を利用しているものがたくさんあり、調査をしてみると公園利用に関する要望が多く出された。とくに多いのは、身近な地域に日頃の活動に使える広さの公園が少ないということと、大会が行われる大きな公園への交通手段がきわめて不便であるということであった。健康づくり活動の調査地域となった山口市は、県内で同じような人口規模の市と比べて、都市公園がきわめて少なく、健康づくり活動に支障が生じており、ますますそれが問題になると推測される。また、維新百年記念公園や河川公園、亀山公園などグラウンドゴルフ、ゲートボールの試合に利用される公園へのバス交通など公共交通手段の改善が何よりも急がれる。その基本は、バス交通の不便地区をなくすことである。

謝辞

本調査研究にあたっては、山口県健康福祉部長寿社会課、同土木建設部都市計画課、岩国市都市整備部都市計画課、岩国市地域包括支援センター、山口市健康福祉部健康増進課、同高齢・障害福祉課、同都市整備部都市整備課、山口市社会福祉協議会、大殿どんぐりの会、小鯖健脚教室、山口市老人クラブ連合会事務局、平川地区老人クラブの各関係者の皆様に聴取調査、資料提供などご協力をいただきました。記して謝意を申し上げます。

注

- 1) 朝日新聞電子版アサヒコム、2009年6月17日
- 2) この調査結果の最近のものは、「都市公園における遊具の安全管理に関する調査の集計結果について」として2010年度の結果が国土交通省から2012（平成24）年3月に発表されている。
- 3) 2006（平成18）年に介護保険制度が変更され、支援や介護を必要とする高齢者の重度化を防止するという「介護予防」が重視されるようになった。そして、介護予防サービスや介護予防事業が実施されている。
- 4) 2008年まで行われたもので、2004年からの第三次五カ年計画では、15の技術研究開発項目の中に「高齢者や障害者のニーズに応じたユニバーサルデザインによる機能充実技術」の項目が設けられ、公園緑地のユニバーサルデザインの評価技術の開発などが追求された。
- 5) 福祉施設と一体となった公園や健康・運動公園等の整備を核とした都市づくりの事業計画を策定し、推進するもの。
- 6) 隣接地に医療・福祉施設が整備され、これと一体化した比較的大規模な公園である。公園内には健康運動施設、宿泊施設等の各種公園施設が整備される。
- 7) 健康運動施設整備計画（ウェルネスプラン）を策定し、その計画に基づき、各年齢層が手軽に各種の運動が行えるとともに、スカイスポーツ等の新たなスポーツに対応できる施設内容を備えた拠点公園（ウェルネスパーク）を整備するもの。
- 8) 仙台市ホームページ、健康遊具一覧、2010年

- 9) 前掲、「都市公園における遊具の安全管理に関する調査の集計結果について」、2012年3月28日
- 10) 同上、別表による。ちなみにジャングルジムは15,117台から13,055台に、吊り輪は567台から447台になっている。
- 11) 萩市都市計画課お知らせ、2007年。また、山口県都市計画課への聴取によると、健康遊具を含む大型複合遊具広場の遊具の選定はワークショップ方式で行われたが、高齢者の要望によって健康遊具が設置されたわけではなく、ウェルネスパークという特性を考慮してのものであった。
- 12) 東京都により介護予防推進モデル地区に指定された千代田区は、2005年に西神田公園と東郷元帥記念公園を地域における介護予防の基盤づくりのための介護予防公園として再整備した。この時に、財団法人東京都老人総合研究所の協力で選定された8基の健康遊具が設置され、介護予防遊具と呼ばれている。これらの健康遊具の利用法についてはインストラクターの指導があり、健康遊具を活用した介護予防運動教室も開かれている。千代田区ホームページ、広報・広聴・相談・情報公開2008年
- 13) 大阪府久宝寺緑地にはスポーツ医学の立場から整備されたという健康広場に平均台や足つぼサークルなどが設置されている。運動指導員の指導のもとに運動教室が行われている。
- 14) 都市計画公園は2013年6月時点の数が都市計画課のホームページに掲載されているが、都市公園の数は掲載されていないので職員から聴取したものである。
- 15) 2011年時点で旧山口市の都市公園は45箇所だけであり、他に「開発公園」と呼ばれるものが332か所あった。他の市町と比べても山口市の都市公園は少ない。久本綾子・平井麗菜・山本善積、山口市における公園の利用に関する研究、山口大学教育学部研究論叢第62巻第1部、2012年、p.168
- 16) 全国の老人クラブ加入率は26.2%で、山口市でも2008年度には28.1%の加入率があったが、会員数の減少と高齢者人口の増加で加入率が減少している。なお、高齢者人口は住民基本台帳による年齢別人口が利用されている。